

非暴力直接行動として

1 手紙

「バリケードは斗争の装いとしてみても固すぎる。バリが拒否の表現であるなら、2・3の机をつみかさねるだけで十分。対抗関係でエスカレートしなければ押れないときは、押れるだけに固めればいい。(日大など、右翼が攻めてくるから、あれだけになって不自然でなかったのだ。)」

ほとんどのところのように攻められせず、表現としてのバリなら、紙っぱら一枚で結構。10月24日に「教室自主管理委員会」を作ってから、バリはつぎつぎに撤去され、現在バリはない。

ところが「教室使用について」という紙一枚の貼り出しで、教授会はまだ一日の議論をして、結論が出ないのだ。

「暴力には機動隊し、だが暴力的な形態がなくなると、教授会は理性的形式での対応をせざるを得ない。彼らは「心のバリ」で教室使用についてしき、ぐるぐるとできず、講義を中断せざるを得ない。

こちらは零下10度の厳冬。いまや教室にはスチームまではいっている。もしバリ封鎖をつづけていたら、機動隊導入がなくても電気ガス・水道をとめられ、バリを維持することが不可能だったにちがいない。

権力の攻勢が続くとき、一歩後退すればよい。負けてしまうのではない。運動自体として生き残っている。ほとんどの論理は、その状況のなかでえって成長し、教授の誰ひとりとして、フルジョア的に聞きながらすることができないでいる。紙っぱら一枚をすら、とりはずすことができない。

団交は継続するだろう。教授会はおもひも生きているだろう。権力が死なぬがぎり。しかし、教授会を苦しめ続けることをとおし

て、ほとんどの権力の実体にはよいと迫っていくことができる。東京のように学閥祭からはじまって旧秩序がひろがることはない。ほとんどのところ、権力との均衡そのものが秩序である。タイナミックな関係そのものが秩序である。運動のなかに落ちつきを見いだすことは、静かな生活に慣れているほとんどのところ、はじめは苦痛かもしれない。でもほとんどのところは斗争のなかですり、いろんなことが出来る。斗争の矛にやれたことは何でもできる——と。これはY君から12月中頃まで手紙である。

2 雨の「あひだ」

このすばらしい手紙に、ほとんどの蛇足をつけ加えたら、かえって印象をよめめるだけだ。それでごく手短かにかく。

① 紙一枚でもバリケードである。紙っぱら一枚でも物質にちがいない。だがその物質力はあのバリケードの物質力と全くちがうものである。

② 物質力とは、物質に人間の運動——カ——が加わったものである。

③ この場合の「カ」を、ふつうの物理力と区別して、「直接行動」とはよく呼ぶたい。

④ どのように巨大な物質でも、それに「カ」——「直接行動」が結合しないがぎり、形骸にひたしい。

⑤ ほとんどのカ——直接行動にはいわゆる「暴力」と「非暴力」とがある。

⑥ ペーパー・バリは、「非暴力」直接行動である。それは物理力とは異質の、たとえば、芸術のような「創造」に「生産」がもつ力である。

⑦ いわゆるバリケードは、物質と暴力の重量をエスカレートしなれば、押りえない。それは敵権力の設定した土俵で、すもうをとることを強いられるからである。

かれた攻撃性は、つくった瞬間から肉狂に転化せざるを得ない。それは運動を硬直させ肉にしてしまう。そしてバリの持続と日常化は、やがて内部の頹廢を生み、運動の歪曲——崩壊をつくり出す。

⑧ 肉鎖したものは現状維持以上を出ない。斗争の形であり方法であったバリが、低次元の目的化する。それは自らバリを壊すことによって、新しい展望を求めなくなる。

⑨ ペーパー・バリは、自己が設定した土俵へ敵権力を引き込むこと。そこでのすもうを敵に強いることである。

⑩ そこでは斗争の目的・方法が一致している。その「かたち」は変化し発展し深化するものとして固定的でない。敵にも用かかれている。

⑪ 破られた紙はいくらでも貼れる。

⑫ だが二とめの紙を貼らせないう敵の暴力に対してどうするか。そしてだから暴力的防衛を、というときから、ほとんどの敵の設定した土俵にひきずりこまれる。

⑬ つまり、どちらが自己の土俵へ相手を引きこむか。そこが真に決する雨の「あひだ」である。そこをはずしての勝敗はない。

3 高校の場合

正直なところ、ほとんどのここまでのいわけがっていない。にも拘らず、二・三の現場で、このペーパー・バリのことをしやべり、状況の創出を示唆した。

そしてたとえば高校Aでは、ある日の午後「自主管理」と書いた紙が教室の入口にはり出された。後輩にきた教師は、入室して討論に参加するか、さもなければ引きかえさざるをえなかった。

その紙は生徒たちによって自在に撤去されたり、とおもうとまた貼られていて、連日教師を畏怖させた。(次頁へつづく)

たとえばBでは、図書室と教室に「管理運営の定め」が貼り出され、生徒がきめた規律を教師も守らぬがぎり、入室や利用ができなかった。

二週間たつて、その紙はなくなつたが、その定めは生きて、生徒をも教師をもうごかした。大衆団交では既製の事実としての重みをもって、そのことが明文化した。

Cでは、たまたま発生した学生との紛議、坐り込みと進行して、ペーパー・封鎖が強力な意志表示のシンボルとなった。学校側は一方的にはがすことから起る、紛議拡大をおそれ、放置せざるをえなかった。

4. 非暴力直接行動

ペーパー・バリを例にすると、「非暴力直接行動」は、次のような人々のみがなしている。闘いの特徴をそなえている。

カ一、敵の学校側は、その性格ゆえに、何よりも理性的非暴力な姿勢を擬装しなければならぬ。つまり、もっとも弱い急所をさらけ出して、敵は斗かぬねばならぬ。一方、ぼくらはもっとも強い部分を武器化していること。

カ二、敵が予期しえない、とつぜんの不意打ち。つまり準備も対応もない段階で、異質の闘いを仕掛けるという「ゲリラ性」

カ三、敵が対策にうつろつて直ちに反撃できないというところは、いままでの「やりかた」とちよつとちがった「斗争の「かたち」と「意味」をもっていること。言い換えれば「創造性」

非暴力直接行動というとき、ぼくらはしばしば、坐り込みや静かなデモをおもいうがべる。だがそのような形式的非暴力の固定化は、直接行動の本質を疎外するものだ。非暴力直接行動は、つねに新しい状況を創出する、人民の行動美学である。人民のみがもつたとしての「創造」「生産」の創出である。

それは多様に変化し変転してつぎつぎに生み出される新しい斗争のタイプである。

それは権力の用いる斗い方を使わないことにおいて、またすでに使い古した方法を場棄することにおいて、決して安易ではありえない。

いだろう。

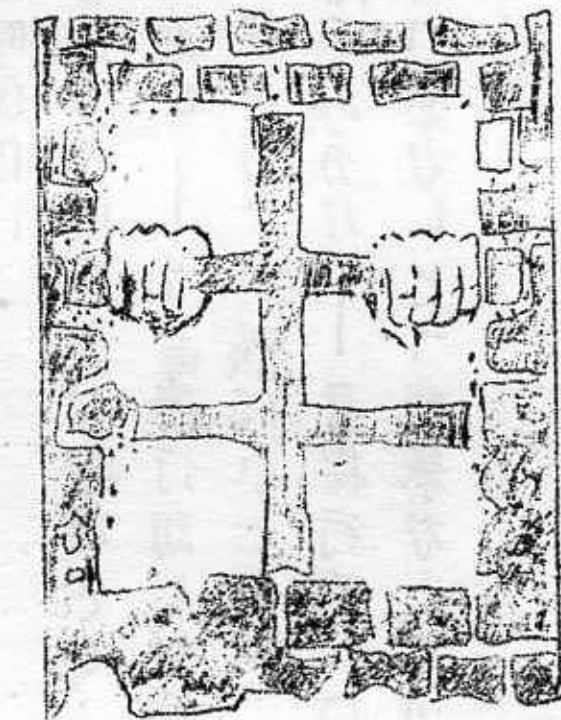
だが、ぼくらの斗いは、そのことをさけて勝利しえないことは、すでに歴史がおしえてくれる。

新しい社会を創出する「苦しみと努力」の一つ一つが、ぼくらの斗いであり、またそれこそが非暴力直接行動の意味である。

(小川信)

PRISONERS FOR PEACE DAY

世界の獄中の同志と交通しよう



WRI(戦争抵抗者インター)では毎年12月1日を「プリズナーズ・ピース・デイ」と決めて、徴兵を拒否した者に入獄させられているCO(良心的徴兵拒否者)に激励と連帯の手紙や贈物を送るような運動をしている。

入獄中のCOのほとんどは、信念の強い平和主義者かアナキストで、マルキスト、とりわけ共産党員は、きたるべき革命戦争の為に、帝国主軍隊入隊の方を選び、COになる者はほとんどなし。こんなところにもマルキストの「毒を喰わば皿までも」主義がのぞける。こんな発想から「革命的暴力」とか「プロレタリア独裁」などの安直な国家容認の姿勢が生み出されるのではないだろうか。

思想の高潔さをとり上げて問題にするのは、けいなこともしれないが、自分が拒否しているブルジョア権力の帝国主軍隊に無感覚に入隊するのはナンセンスである。本当の思想とは、その実態が見えなくなる程個人に主体化されてしまうものであるから、個人的レヴェルにおける最低の思想的貞操として、COは個人的基本的反抗として貫徹されるべきだろう。それは、非暴力のみを旨としない人にとっても然りである。徴兵法の内容に肉しては、各国様々であるが、拒否者に対する処罰はひどい。例外として、COを認めている国もあるが、そんな国ではCOは代替作務としての労働奉仕に強制従事させられ、その仕事場から離れると脱走兵として指名手配し、軍事裁判にかけるという事件がフランスで起っている。

なぜそんなに「国家」はCOを恐れるのか。それは戦争を拒否することが、「国家」の命令に従わないことであり、しいては「国家」の存在そのものを否定する革命的な行為であるからだ。COという行為は単に思想的貞操としてではなく「国家」を否定する積極的な意味をもつ。獄中のCOと交流することは、近い将来に徴兵復活が予想される日本の状況からして有意義なことである。COにとつても、遠い国からの見知らぬ仲間からの手紙は、この上もない励ましとなるだろう。

＜ドイツ＞ 1.Mr.Hans Toachim; 18 Brandenburg,Havel,Kanalstrasse 3, German Democratic Republic / 2.Mr. Frau Solveig Körner; Barminstrasse, Frauengefängern, Berlin, G. D. R. / 3.連のチェコ籍入に抗議し、スリッカーをばり、ビラをきいた為入獄中。＜ギリシャ＞ 地中海の軍事国境ギリシャでは、徴兵を拒否すると3年の刑を受ける。3年後に再び徴兵召喚があり、それをも拒否すると更に3年の刑。こうして36才になる迄くいかせがつづく。

1.Mr.Christos A. Bikakis 2.Mr.Markos J. Mandonarakis 3.Mr.Christos A. Tsoutsis いずれも Bogiati Prison, Athens, A. Stavros Tseoussis, Elias Loxas, Greek. ＜スペイン＞ フナキスト総シウツコノ獄中にある仲間だ。 1.Mr. Sanchez Banitu Azabal; Hospital Militar, Madrid, Spain / 2.Mr. Francisco Izuel / 3. Mr. Miguel Gutierrez / 4.Mr. Miguel Garcia いずれも Santa Catalina, Cadix. Spain. / 5.Mr. Antonio Ligero; Prison Militar de la Mola, Nevada, Spain. / 6. Mr. Francisco Lopez; Prison Militar de Miletas, Mallorca, Spain. ＜フランス＞ 1.Mr. Henri Vial; Prison Militaire, 56 Blvd. Jacques Cartier, (35), Rennes, France / 2. Mr. Gérard Soto; Prison Militaire de Metz, (57), France. ＜アメリカ＞ 1.Mr. Dennis Southward / 2. Mr. Andrew Miller / 3. Rick Fallow. その他くはいずれも Federal Prison, Allenwood, Pa. 17810, U.S.A. / 4. Mr. Ralph Squire / 5. Mr. Bruce Francis / 6. Mr. Jon Bach. その他くはいずれも Federal Prison, Ashland Kentucky 4101, U.S.A. もっと詳しいリストが欲しい方は自由連合社に問い合せて下さい。西田でリスト「プー」送りませ。

ユーゴスラビア社会主義現状をめぐって

尾関弘

ブルジョア君は去年の夏、SCEI（サービス・シビル・インターナショナル）のボランテアとして来日した22歳のユーゴスラビア青年である。きれいな金髪に青い眼というスラヴ人特有の顔立ちをした仲々の好男子である。彼は母口語（ユーゴスラビア語）の他にロシア語、英語、フランス語、イタリア語、エスペラント語をしゃべり、インタビュアーは、これらの都合でフランス語、英語の二ヶ口語を用いて行われた。（尾関）

ユーゴスラビアの建国

尾関 ほんどの日本人は、ユーゴスラビアという国の名は知っていても、どんな国だか知りません。まずはじめにユーゴスラビアの歴史を簡単に話してくれませんか。

ブルジョア ユーゴスラビアが独立へあつたのは連日と呼ぶべきでしょう。しかししたのはオーストリアと第二次世界大戦後です。それまではユーゴスラビアは常に隣国の領土の一部でした。独立直後の支那、最後の占領はオーストリアです。良く知られていゝように、オーストリアは第一次世界大戦はセビリア人（ユーゴスラビアの一族）の青年のオーストリア皇太子暗殺によって引き起された。このようにユーゴスラビア人のオーストリア感情は異常なものでした。

共和制発足によって王は海外に亡命し、今はモナコのモンテカルロに住んで優雅な生活をしていらしいです。

チトーによって社会主義国であることが宣言されたのはもう少し後で、一九五二年のことです。有名はその宣言は次のように云っています。完全な工場は労働者のものである。ユーゴスラビアは、労働者によって動かされる。尾関 独立戦争後そんなにすぐに社会主義国になったのですか。それにロシアとの関係もあるでしょうし。

ブルジョア 独立戦争は云々ゆゑ人民戦線方式で断れしました。だから人民戦線軍に加わった人の中には、チトーのような共産主義者だけでなく、社会民主主義者やナキスト等々、いろんな主義主張の人がそれなりに連合して断ったのです。チトーはその中でも抜群

の政治能力と名声をもっていたのです。

チトーとはどんな奴か

尾関 そのチトーとは一体どんな奴ですか。

ブルジョア チトーは全くの労働者階級の出身です。彼はロシアでボルシェヴィキの一員としてロシア革命を体験しました。ロシアに帰ってからは、それが禍いのもとになったのです。というのは、チトーによる社会主義国家ユーゴスラビアの建国に際してロシア革命とボルシェヴィキの経験が反教師として役立ちました。ユーゴスラビアでのチトーの人氣は絶大です。ある意味では、チトー自身の個性が、ユーゴスラビア社会主義のユニークさとなっていると云えますしやう。

尾関 ユーゴスラビア共産党に対するロシアの態度はどういうものでしたのか。

ブルジョア チトーがそうだったように、ユーゴスラビア共産党もロシア革命とボルシェヴィキの影響と指導によって生まれ育ったものです。しかし、先にも云ったように、チトーはボルシェヴィキの権威主義的な体面を最初から反発してました。だから、結成当時のユーゴスラビア共産党は、親ロシア派とチトー派の二つに割れ、内紛がたえなかつたのです。そのような状態は四八年まで続きました。

とくに一九四七年のロシアのユーゴスラビア封鎖政策で、一九五六年のハンガリア革命、一昨年のチェコ事件と同じものをユーゴスラビアは経験させられたのです。ただ違うのは、ユーゴスラビアはロシアの露骨な抑圧政策をはねのけ、党内部から親ロシア派を全員追放することに成功したのです。

一九五二年の「社会主義宣言」は、

ユーゴスラビアにみけるソビエト社会主義の壊滅宣言であり、チトー社会主義の発足宣言なのです。

尾関 一般のユーゴスラビア人の「ロシア観」というようなものはどんなものですか。

ブルジョア ユーゴスラビア人はロシア人に対して、同じスラヴ人としての民族的な親近感をもっています。しかし、経済封鎖の経験やそれ以後の陰險な仕打ちをユーゴスラビア人は決して忘れることはないでしょう。一昨年のチェコ事件はそのことを確認させられました。

「労働者管理」の実態

尾関 さて、つぎにそのユーゴスラビアの社会主義がどんな風にロシアや他の東欧諸国の社会主義と違っているかをききたいのですが。

ブルジョア フランスのアナキスト、タニエル・ケランは、ユーゴスラビアとアルジェリアの社会主義は「労働者管理」をその原理としており、ロシア型社会主義より一歩先んじていると述べています。ユーゴスラビアでの「労働者管理」の実態はどんなのですか。聞くところによりますと、ブルジョア君も工場で働いておられたそうですね。あんなに工場のことばかり話して下さい。

ブルジョア たしかにユーゴスラビア社会主義の特異性は「労働者管理」にあると思います。そのことは、先にも触れた「社会主義宣言」に明記されてあります。

私の働いていた工場は、七百人以上の従業員がいる、ユーゴスラビアでは大きい方の紡績工場です。そこでは月に一回、工場の全労働者が参加して集会が開かれます。そこで話されることは、給料と労働条件の向上が主です。上司に対する不満も述べられます。集会で提案されたことは全労働者の多数決で認められれば、政府にだいたいの決定を採択します。工場がいくらもうかっているかというのには公開されていますから、労働者も無茶な賃上げ要求をしたりしないのです。

尾関 資本家としての工場主はいないが、工場主に代って党派遣の官僚が工場のマネージメントをやっているというのですか。

ブルジョア 大工場には党派遣の官僚がいることは確かです。労働者は工場の海外や経営業務その他を務める官僚が必要だと思えます。（次頁へ）

しかし、それが単なる一業務となるように、労働者はできるだけその力を制限しようとしています。

尾関 だからといって党派連の官僚をそのまま容認するのはおかしいのではないかと。労働者の間で互送を促して決めれば、今のまじや「資本家」が「官僚」に代っただけで、頭の下げかえにすぎないのではないですか。

ブルノ そうですね。君がアナキストだからで……。非常に不愉快——尾関——私は矛盾を感じていない。工場は労働者のものであると同時に、政府に指導管理されている。工場と政府は常に強い関係にあるのです。

尾関 君は「政府」というが、ユーゴスラビアでは、それは「共産党」とイコールでしょう。だから政府による指導・管理といってもその実は共産党独裁、共産党支配ではないか。その限りにあてはユーゴスラビア社会主義もまたスターリニズムの典型にしかすぎない。

ブルノ スターリニズムとはだいぶ違う。へかりに立腹して自分自身労働者であつたチトーはロシア革命の経験から党支配が社会主義社会に有効でないことは充分知っています。

尾関 それじゃ、ユーゴスラビアでは、労働者によるストライキ等はあつたのですか。

ブルノ あります。主に、労働条件の改善を要求したり、自分の上司である官僚をリコールしたりします。それは長くて三日程のストライキで、たい成功します。政府は労働者の要求を汲みかちます。

私がここで言う「政府」とは主に地方のことです。ユーゴスラビアでは地方がかなり多くの権利をもっており、工場と強い関係をもっているのは地方政府です。

もうかる商売は政治家

尾関 君が仰っている時、給料はいくらもらってましたか。

ブルノ 私の月給は日本の金で一萬七千円程でした。普通、労働者は一萬から三萬円ぐらいでしょう。ユーゴスラビアでは一萬七千円もらえは、せいにくしなれば暮せますよ。

尾関 政治家はどれくらいもうけていますか。

ブルノ 十萬から三十萬。中央の政治家の一部は、五十萬もらっている。彼らのなかには自家用車や別荘までもっているものがある。

尾関 それじゃユーゴスラビアでもうけようとしたら政治家にならなければなりませんね。子供の多くが共産黨員になりたびつていて、日本の子供が野球の選手になりたびつていて、同じように。

ブルノ 共産黨員にはなりたくても仲々なれるものではありません。成績がズバ抜けて優秀であるだけでなく、黨員の推せんも要ります。だから黨員の数には余り変化がありません。

尾関 そのままではユーゴスラビア共産党は老人ばかりの集団になつてしましますよ。77年のチトーの戦友だとかいう連中ばかりの。

今、世界中で爆発的な学生運動の盛りあがりがあります。ユーゴスラビアではどうですか。

ブルノ ユーゴスラビアでは共産党以外のあらゆる政治組織の活動は禁じられています。だから、当然、反政府的な学生運動はありません。しかし、老朽化してしまっている共産党の保守的政治に対して、若い共産黨員を中心に共産党シンパの青年によつて批判の運動があります。

尾関 ユーゴスラビアにはアナキストはいないのでしょうか。

ブルノ ユーゴスラビアではアナキストは答えであつた方がいいですね。アナキズム運動があつても、当然地下運動ですから普通の人は判りません。

ただ人民戦線時代はアナキストもパルチザンとして用つたことを聞いたことがあります。

産業はどこまで

国有化されたか

尾関 ユーゴスラビアでは全ての産業が国有化されてあり、私企業というものは全くないのでしょうか。

ブルノ タクシーの運転手、時計、靴それに自動車修理工などのいわゆる職人的仕事は個人企業としてまだ営業されています。最近、歯医者も個人経営が許されるようになりました。食堂もそうです。そしてこれらの職種では、二人まで労働者を雇うことも可能です。しかし、経営者の多くは、家族の一員だとして、かして、三人以上の労働者を雇った

りしているようです。

尾関 農業も国有化されているのですか。ロシアにみられるコルホーズとかソホーズとかいうような組織はあるのですか。

ブルノ 農業は仲々国有化できていないようです。政府は早期に全国を国有化をねらっているのですが、農民生活一般は独立後もほとんど変わっていないのではないのでしょうか。

コルホーズやソホーズと呼ぶものはありませんが、もっと小さな規模の農業協同組合のようなものが各地方にあつて農作物の売買、政府との交渉などにあたっているようです。

尾関 農民の生活は、都市労働者の生活と較べて一般的に貧しいと云えますか。

ブルノ ひならずしもそうとはかぎりません。ただユーゴスラビアでは、地方によつて農民に大きな貧富の差があります。すなわち土地の肥沃な地方の農民は昔から豊かであるのに対し、そうでない土地の人々は貧乏だという現象が社会主義口になつてからも何ら改良されることなく続いているのです。

尾関 今の話ですと、ユーゴスラビア社会主義は農民を解放しえなかったということになりますね。とすると、ユーゴスラビア社会主義やはり、都市プロレタリアートの革命理論でしかなかったボルシェヴィズムと同じ穴のムジナでしかなかったのではないかと。自己管理という新しい試みは一部見られたとしても「人民革命」から「人民解放」をもちたらず社会主義では到底ないことは明らかです。

次に、ブルノ君にユーゴスラビア一般に關して簡単な質問をいくつかしてみたいと思います。

ユーゴスラビアにはミニ・スカートの女性はいいますか。

ブルノ ウィ

尾関 若い人達の日常的な最大の関心事は何ですか。

ブルノ アメリカのジャズです。尾関 たとえば映画など、芸術の制作活動は全く自由ですか。

ブルノ 自由です。ロシアのような事件は起つたことがありません。尾関 日本に住んでみて、君は資本主義国と社会主義国ではどちらに住み良いですか。

ブルノ 永住するのはやはりユーゴスラビアにしたいですね。

映評



このような映画に、政治的、思想的な意味の描写の完璧さを要求するのは、「ないものねだり」かも知れない。しかし、人間集団の生の葛藤を描くには、余りにも話が演出、脚色化され、「ウケんかな根生」に費めかれた小川ア口の商売人気賞か画面の前面に写し出されてしまった。カメラの位置にしても、迫力においても、あの高崎経大南争を描いた「庄殺の森」には遠く及ばない作品と云えよう。

「バルチザン前史」は、9・20のいわゆる京大決戦をピークに、今日における反体制運動の「軍事」の問題として描かれている。これにしても、共南（京大文学部共同会議）というノンセクトの素人活動家集団が、なぜに封鎖から武装化していかねばならなかったか。なぜ学園から外に出なければならなかったか。なぜ赤軍でなくバルチザンでなければならぬか。この点に肉して映画は何も答えてくれない。だから極端に言えば、この映画から滝田修の演説場面を取り除けば、「バルチザン戦線」の話ではなく赤軍派の話念としても見られるのではないか。

その最大の理由は、滝田修に執権にしゃべらせながらも、話を単に軍事の問題だけに歪曲化しているからである。滝田が強調したように、「パルチザン五人組」は「共同労働団」の発想と一対のものとしてある。それらは単なる戦術転換の一形態としてではなく、従来のセクトの運動とは、きりと別個のものとして、ノンセクトゆえの自由な発想による新しい質をもったものとしてある。

滝田は云っている。「共産党や劇団学芸の連中すらやってきたことを俺達はやってこなかったのではないか。本気で革命しようと思ったら、俺達左翼渡世人も、かっごうつけて生きるんじゃないやなくて、どうぞとした人間的営為の中から露骨に革命をねらわなければならぬ。『パルチザン五人組』と『共同労働団』はそんなところから生れた。」

京大闘争の内容を決定した重要なモチーフの一つは、6・29、30の他では見られなかったほどの民

この武力的総攻撃があった。これがノンセクトの活動家をして9月國争に向つて次第に「防衛」的軍事化をもたらしした要因である。京大國争において、軍事をやりきることの意味は、帝大解体とともに、民口口を徹底的にたたき潰すことと共に、滝田が言うような「自警団をも徹底的にブン殴る」質をも持つものでなければならなかった。しかし、学生は自警団を殴れなかった。ここに大衆的な人民武装による自己権力への志向が生れてくるのである。かたして映画「パール・ザン前史」は、このような情況に主体的に苦悶してきた活動家を映しえたりするか。人間を描ききれないで、単に9月國争に現われた彼らの表現形態としての「軍事」の描写にすぎなかったように思う。

(尾関弘)

幻視の战士共同体

大正行動隊の非相續遺産

池ホッパ―券の有刺鉄線となソリン
のまかれたハサンゴウをばさんで
完全武装の機動隊の一万と、鉄帽と
タオル覆面と木刀で武装した労働者
二万の軍団とが対峙した。労働者軍
団は、背中に日本刀をくくりつけた
決死隊を準備していた。

そして炭労指導部は、「流血を避
けよ」という国家権力の恫喝の聲に
二万人の労作者軍団に武装解除を命
令し、決戦を要求したヤ一線労作者
の行動を、団結の名のもとに押し
つぶした。

ハ大正行動隊Vのある労働者は、
「俺はあの時燃焼しつくすへきてあ
った。あの時から今もなお、俺の後
退は続いているのだ」と現在考える

敗けつぷりに頭にくた抗夫たちと、
 共産党に見切りをつけた共産主義者
 たちとの連合が生れた。この連合は
 ハモンキリ型運動✓に不信をたたき
 つけ、自分たちの労働者運動の創造
 を課題にした。

その一つは、労働争議というの
はケンカであるといふことの発見
であつた。かつて自分達が体験した
あらゆるケンカの方法が検討され、
工夫された。もう一つは、物神化し
ていた共產党のハ統一と団結、組
織の破壊であつた。ここから新しい
組織原則が生れた。ハ俺が行動隊だ

と思う奴が行動隊だ、へ自分、が反対だ、と思う行動には参加しない義務がある、へ分裂行動の自由、へ

導部、組合石派、金融資本と真向の
 戦闘を開始したとき、若く行動隊
 員が、強姦、殺人犯として逮捕され
 た。しかも被害者は、最も若い、最
 も感傷的な隊員の妹であつた。更に
 数ヶ月後には、被害者の兄が、ヒラ
 を持つたまま磔死した。大正行動隊
 は、対外的にも、対内的にも極限の
 危機を経験したのである。

「殺したのは誰か?」「殺されたのは誰か?」行動隊員は去った。「被害者を殺したのは俺である」「被害者もまた被害者以上の被害者であり彼を殺したのも俺である」「加害者の行為は美しい。しかし俺にとって
は美しすぎる。そこにウソがあるよ
うな気がする。」

三池の敗北によつて労働運動も日常常態化した。八八正行部隊は、この三人の死によつて革命を日常的使命の課題にする。『殺人者である俺を解放する』革命とは如何なる革命か？ 『殺人を耐え得ない俺に現体制を殺す革命が耐えうるのか？』しかし隊員はこの日常性から突然跳躍する。『みんな行動するとか、南うとか云うが、行動するといふことはどういふことだ。『めえの親を殺し、めえの子供を殺してやる』とどし。当時、隊員は一人／＼ポケットにナイフをしのばせていた。それは敵の闇打ちやバルトに対抗するものであったが、同時に内なる革命に死との対峙を日常的に維持するためであった。隊員は、組合大会でも、カクジの中のナイフを握りながら、民主主義を、平等を演説したのである。

「決戦」——大正内争は六一年暮から六二年春にかけて最後の決戦に突入した。争議の性質は、「肉山」という既定のコースを資本の手であこなうが、労働者の手ではじめをさすかという点である。退却願ふところにした内争は、「俺たちの手でマをつぶし、俺達の運命は俺たちに切り拓く」という、全生活的な戦略Aと変化した。

「去るも地獄、残るも地獄」という状況の中で労働者に与えられた選択は、へ既知の苦と未知の不安とをどちらのどちらかしかなくった。しかし、嵐の裏切り行為によって、（八頁下段につづく）

暴カデモは悪だ、
いざ知らず、教師
がそれに参加するとは
この考えの基礎にある
のは、教育は政治的に中
立でなければならぬとい

うことである。戦中において、学校教育が天皇制イデオロギイの尖兵となつて、生徒を戦場に送り出しに反戦として曰教組がかかげに「教え子と函ひ戦場に送るな」というスローカンと、兵力の増大に教育の政治的中立」は奇妙に共和するものを持つてゐる。

すなわち、「教育の政治的中立は、それと説くものの個々の主観を越えて、」教育の政治活動制限として教師の反戦志向を押しつがす有力な兵力の思想的武器として定着している。

重大な社会的動きに討し、教師が常に「教師」としてしか対応できないとすると、教師が目うを人間として奇異化していると考えられます。これに反対し、反戦の行動に起ち上がるのは、職業・身分を越えて、一人の人間の全く正当な基本的権利であることと確認せねばなりません。

その全人間的質量をかけた反戦行動が、教師が教師たるがゆえに断罪されるということとは、とりもなれず、学校と支配の温床に、教師とその忠実な園丁にする能力の意圖を示すものに他ない。我々は、教師もまた一般労働者と同じく政治闘争の権利を大膽に目うのものにすべく、教師を国家权力の下僕化するあらゆる企画に反対し、行政的弾圧、不当処分に強く抗議し、その撤回を要求する。

私達は同時に、今は牢獄中にい
る多くの反戦教師を一日も早く奪
還するため、救援活動と飛躍的に
強化するに、力強い支援と協力
を訴えます。

（連絡先 東京都世田谷区岡本
所2の4の1 三川寅河「反戦教師
救援会」）

トメとはかり、公明党、創価
学会、ボクメツのキャンパインをや

り出した。例によつて何もしらない町の文化人などを駆り出して、「言論・出版の自由を守る会」などあらう。こゝでつくつてゐる。藤原弘達などを守り立てて、三ゴトナ城衛、まことにアツパレというほかない。この立て前、趣旨は大いに結構。よくも大サンセイ。

だが、このさい、何よりも言論出版の自由の捍卫者、日共サンをも一しよにやり玉にあげるべきではないか。いままで日共さんのオソロシイ手口に泣き寝入りしてきた人、事實を知っている者はゴマンといふ筈。みんな一せいに声をあげよう。言論、出版の自由を守る会へも参加して、内と外の敵を共に突き刺そう。これがゲリラ戦術というものだ。

—キロ数ごまかす大ペテン—

拝啓。国鉄労働委員長殿
 さて、国鉄が運賃計算で大サギを
 しているのをごでんじか。(まさか
 知らんことないやろ?)

運賃はレールの米数で計算すると「營業案内」にかいてある。「寸キ口旅客運賃表」では三六六キ口（東京―名古屋間）は一五六〇円也。ところがこのキ口は東海道線のもの。新幹線のキ口数は三四二キ口。つまり一四七〇円と九〇円安くなるんたらかうのか。このようにして東京―新大阪間新幹線キ口数は実際より三七・二キ口短いのに表示せずゴマか

してゐる。新幹線はスピードアップでサービスマシを動かすから、なんて言
訳けは通らへんぞ。ちやんと新幹線
特急料金に別に払うてゐるやないか。
国鉄は39年10月以来5年以上も新
幹線の列車運行距離を減らして約二
百億円の不正損益をねこばしてゐる。
国鉄労組はその事情を知りながら
ナレ合つてゐるとらかうか。ほくは
この五年間に15回以上のつてゐるや。
走つてないキロ数の運賃返上と国
鉄総裁に早速云うてくれ。その返事
がインテキやつたら、ほくの代りに早
速ストをやつて汽車とめろ。

「東大南等……68年11月までは評価するよ、わかるよ、だけどそのあと駄目に……とくに69年1月の安

田講堂の用いは犯罪的だよ。山本義隆や最首悟、奴らうたをうたいやかた。散文的死が恐いからうたをうたって花と散る、ようするに格好をつけやがった。労働者や農民、市民の開いてうたをうたえるか、みんな散文的死なのだ。やりきれないところで圧殺されたから、いつまでもくすぶるのだ。覺めたインテリは山本義隆や最首悟のうたを笑っているぞ。丸山眞男先生に代表されている近代合理主義があんなやつっぽいうたではぶっつぶれはしないぞ、安田講堂が研究室の破壊や落書などではつぶれはしないぞ」と語った友人の発言がこのころわかるような気がしてきた。新左翼と称する連中の大半、もちろんぼく達も含めてヤスビカのテンピラ左翼でしかなかったのではなにか、そしてテンピラ左翼よりもっと悪いところに左翼ヤクザがいる彼らは新左翼の学生運動というのはバリ封鎖と落書と桐嶋とヘビおとりしかないと思っっているらしい。そして60年安保より思想的に進歩したと得意になっている。なにが進歩なのだろう。60年安保も含めて、戦後のマルクス主義や左翼運動のすべてが戦前の左翼遺産のくいつぶれじやないのか、それどころかマルクスからだってどれだけ進歩したというのにちつとも進歩しないどころか退化した部分も随分あるのではないか。このよう「な」とある学生に話したところ、その学生は、東大安田講堂の落書の「連帯を求めて孤立を祈それす」とは、明らかに60年安保の賣を超えるものと反論した。しかし、そうだろうか。谷川雁は58年6月号「文芸」の「工作者の死体に祈えるもの」という小文の結語で「そして今日、連帯を求めて孤立を恐れないイデアたちの会話があるならば、それこそ明日のために死ぬ言葉であらう」とうたをうたっている。ぼくはその学生に、「とういことを言うな、山本義隆や最首悟たちよりうたがうまいぞ」と叫んでやりたくはなかつた。

うたとうたにえることを羨しがるより、もっともつと覺めた目でうたをうたいたくともうたえない庶民の立場で、冷やかに現在の運動を再考してみたい。

一〇

七〇年一月 全都ノンポクト陣

アンキスト

武者修業の記-8- 尾崎 弘

アナキスト
インターの巻
3

四方からのテレビの照明を浴び無様に差し出されたマイクを前にしたダニエル・コンベンディットはまるで千両役者の感さえた。

あの小さなコンベンディットが赤毛を振り乱し、ジュスチャアにぶりに話し始めると少し大きく見えたから不思議だ。尻上り気味に、ゆっくりと威厳をつけて話すかと思うと、突如として枕詞鏡のように早口になったりする。それは、言葉を充分に理解することができないばかりで外国人にとっても彼の話しぶりを聞き取り難いものがあった。この演説を一度聞いただけで、ぼくはコン・ベンディットの口真似をするのが得意になった。たとえ、与興に与られてよくフランス人の友人の前で演じてみせたものである。

このコン・ベンディットの演説内容については、すでに旧自連一九六八年一月号に「公議より行動を」と題して紹介済みである。ここでは演説を通じてぼくが抱いた感想を少し述べてみよう。

その一つは、ダニエル・コン・ベンディットが、世間で言われたり、それまでばかり考えていた以上にアナキストであるということだ。それ、かなり前にオーストリアのアンキストであったアナキストの一人であり、彼もまた「黒と赤」のグループメンバーであることとを考慮すると、そうでもないことを予想していたのがおかしいのかもしれない。

だからと言って、コン・ベンディットの思想の至るか、バグーニオンやマラテスタの二番せんで、とるに足らないものであると断定してしまふことは危険です。それはむしろ、新しい思想とか、現代革命の思想とか、従来のものと

無縁のところから思いつきに生まれるはずがなく、とりわけフランスには、社会主義思想にそれだけの厳しさと、重さとの伝統があることを感じさせられた。

この時のコン・ベンディットの演説要旨はインターという発想の裏にあるアナキズムにあるまじき組織主義、官僚主義を痛烈に批判したものであるが、その限りにおいてコン・ベンディットの方が運営委員達より、言葉の正しい意味でのアナキストであることを証明していた。

X X X X X
会議が終わってからも夜遅くまで議長団や運営委員などによる集會が長々と続けられ、コン・ベンディットらの会議介入の件がヒステリックに取りざたされていた。そこまでは付き合いたくないというので、ぼく達はフロアレンスの同志パウロの車で宿舎に帰ることにした。

ぼく達が大会期間中の宿舎に利用していたのは、海岸近くのバンガロ村である。各国代表とか、何々委員達が、新しく建てたばかりの観光ホテルに大挙泊まっていたのに、ぼく達がバンガローに宿舎を決めたのは、経済的な理由の他に、若いアナキストの解放区のような観念であつたからである。あちこちで焚火を囲んだ若者達が、ギターを弾いたり、討論したりして、ここには夜がけいようであった。

ヨーロッパでは毎夏、学生の休暇中に各地で国際青年アナキストキャンプが開かれるが、お互い以前からの顔見知りのものも多かった。ようである。それになんとも羨ましいことであるが、若い活動家の多くが最低2ヶ国語を自由に話せるのである。彼らは若いゆえに、国境を超え、情況の違いを超えてすぐに、旧知のごとくに連帯する。与えられたかのように準備されたアナキスト・インターで得られなかった世界の活動家との実際的な交流をこのバンガロー村ではたすことができた。

翌日、大会二日目のことである。少し遅く会場に現われたぼくは、ザワザワした機嫌な雰囲気を感じた。じつと、スイスとイギリスのアナキスト連盟の代表の演説の時、予想したことが起った。20才を少しでたぐらいの彼らは、激しく大会を批判した。そして最後に、「大会をアナキスト・インターとして認めない」と。自分達は別の集會を組織する(と。

と。「を共同声明として発表し、参加者カードを破いたからにまらない。会場は蜂の巣のように騒然となり、マジと罵声が「ジョー」と荒れ狂った。その中を伊達男のイギリス代表スチユアートとゲバラ監のスイス代表ジョンは消えていった。

その日の昼すぎ、ぼくは「黒と赤」グループの顔見知りの友人に呼びとめられ、誘われるままにコーヒー・ショップに入った。そこで造反集會も一つのアナキストインターについての情報を聞いた。彼は「君は純粋に君の思想に任せてこのインターを評価したまえ。そして、少しでも認められないものを見出すなら、君の思想性を賭けて抵抗すべきだ」と話した。

ぼくは、対立を部外者の見るしかなかつた今までの態度を自己批判して、バンガロー村で午後から開かれるという造反集會に参加するためこっそり助を出た。唯一の日本人造反者として、造反仲間から拍手で迎えられたぼくは、みんなに囲まれながら自分の「代表者カード」を二つに割いた。これでもうどうしてもインターの方には帰れなくなったのだ。

(P5より)

……へ既知の苦しみの中で闘う方向が与えられたため、面白いづけるために、戦闘的部分はへ未知の不安を選んだ。

資本の要求する380名の指名解雇に對し、1000名近くの退職者を組織し、その退職金3億円を即時完全支払の要求をする(とによって、金融資本側の合理化計画を一時的に頓座せしめ、二年後には閉山に追い込んだ。しかし、そのことによって、八大正行動隊Vの初期の目的は、三池の恨みは果たされたのだろうか。そして彼らの八革命への執念はどのような動いたのだろうか。確かにもう一度、行動隊は、「退職者同盟」の中核として、また「筑豊企業組合」の指導部として活動することになるのだが、八革命者集団Vとしての大正行動隊は、その初発の生命を失い、自立労働組である「退職者同盟」の中に解消してしまつた。

(「ちくほう夜話」12号より)

編集空にかえて

一ヶ月近い風邪から解放され、自連を創り終えたまた大部の手紙や札肉紙類を手にした時、春が近づいた事を感ぜました。ヤロセギヤロメ